

長沢ため池

(ながさわためいけ)



全景



ため池の概要

ため池の所在地

山口県阿武郡阿武町

ため池の特徴

長沢ため池は、慶長7年(1602年)、領内に不毛の地があることを嘆いた領主益田越中守元祥が、かんがい用水池として築造したと伝えられています。築造後約400年を経過した今も40ha余りの水田に農業用水を供給しています。

地元では、平成16年の改修工事をきっかけに特定農業法人「福の里」を立ち上げ、ミネラル米栽培に取り組み、福の里ブランド米として県内外から高い評価を得ています。

また、「福の里」女性部が加工施設の運営に携わり、直売所での餅、野菜や花卉等の販売を手がけるなど、ため池は地域の農業生産全般に大きな影響力を持っています。

長沢ため池は、絶滅危惧種の淡水産貝である「フネドブガイ」が生息する山口県唯一の場所とされています。また絶滅危惧種の昆虫である「オオルリハムシ」が、植物「シロネ」を食草として生息しており、ため池は「オオルリハムシ」の生息に欠かせない環境要因となっています。

阿武町では、この池を地域の観光資源に位置づけており、池を一望できる北側に公園を整備し、築造時の斜樋を石碑とともに展示しています。

公園からの眺めは美しく、毎年11月に行われるルーラル315フェスタでは、特に多くの都市住民がため池周辺を訪れています。

関連情報